

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 外国人の青少年の学び直しを支援する会

1. 事業の趣旨・目的

地域や職場において、基本的な日本語の文章を理解できる能力を身に付け日本語の運用能力を高めることを目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
11月20日	浜松市外国人学習支援センター	津村公博、中村恵里花、中村梨乃、パブロ・ナダヨシ・ロリン	発表会について	発表会の発表内容の検討、役割決め、資料作成
3月25日	浜松市外国人学習支援センター	津村公博、中村恵里花、中村梨乃、パブロ・ナダヨシ・ロリン	報告会について	成果報告会の発表内容の検討、役割決め、資料作成

【写真】



3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 「日本語能力試験(N3/N4)対策－文章理解力促進講座」
- (2) 開催場所 浜松市多文化共生センターC ルーム
- (3) 学習目標 N3、N4 の受験・合格
- (4) 使用した教材・リソース 耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N3・4、
にほんごチャレンジN4 [文法と読む練習]
- (5) 受講者の募集方法
浜松市多文化共生センター、浜松市外国人学習センターからの紹介、ブラジル・
レストラン、雑貨店などで募集用チラシ配布

Aulas noturnas grátis
para estrangeiros

JUNTOS

SALA EJA

Educação de Jovens e Adultos

(Patrocinado pela prefeitura de Hamamatsu)



Língua Japonesa, Inglês e Educação Física.
Reforço para os testes de Proficiência
e conclusão do ensino fundamental do Japão.

Local : HICE Centro Multicultural de Hamamatsu 9F
(Quartas - Feiras) Quadra de esportes da Universidade de Hamamatsu Gakuin
Horário : De Segunda à Sexta, das 19:00 às 21:00
Período : Abril de 2011 até Março de 2012

- (6) 受講者の総数: 31 人
出身・国籍別内訳: 中国 10 人, インド 3 人, ブラジル 14 人, インドネシア 3 人,
ルーマニア 1 人
- (7) 開催時間数(回数) 84 時間 (全 42 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会場	内容
①	4月26日	2時間	5人	多文化共生センター Cルーム	自己紹介
②	5月10日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～られる
③	5月17日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～つもり
④	5月24日	2時間	5人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～意志形+思う
⑤	5月27日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～かた
⑥	5月31日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～の/こと
⑦	6月7日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	確認テスト
⑧	6月14日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～ため
⑨	6月21日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	状態を表す動詞の使い方
⑩	6月28日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～だろう
⑪	7月5日	2時間	5人	多文化共生センター Cルーム	疑問詞の使い方
⑫	7月12日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	確認テスト
⑬	7月26日	2時間	9人	多文化共生センター Cルーム	伝聞の使い方
⑭	8月2日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	～てみるの使い方
⑮	8月9日	2時間	4人	多文化共生センター Cルーム	総まとめテスト
⑯	8月23日	2時間	4人	多文化共生センター Cルーム	～てはいけない
⑰	8月30日	2時間	5人	多文化共生センター Cルーム	命令の表現

⑮	9月6日	2時間	5人	多文化共生センター Cルーム	さしあげる、やる、 いただく
⑯	9月13日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	様態の使い方
⑰	9月20日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	様態の使い方 ～のようだ
21	9月27日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	動詞の使い方 ～ところだ
22	10月4日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	確認テスト
23	10月11日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	仮定形の使い方
24	10月18日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	疑問詞+〇〇の使い方
25	10月25日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	こんな～+名詞の使い方
26	11月1日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	使役受け身
27	11月8日	2時間	9人	多文化共生センター Cルーム	言う、伝える、注意 する
28	11月15日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	尊敬表現
29	11月22日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	謙譲表現
30	11月29日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	縮約形
31	12月6日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	使役形をつかった表現
32	12月13日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	自動詞を使った表現
33	12月20日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	縮約形の使い方（発展）
34	1月10日	2時間	8人	多文化共生センター Cルーム	～から～にかけて
35	1月17日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	比較の仕方

36	1月24日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	まとめとテスト
37	1月31日	2時間	6人	多文化共生センター Cルーム	～くらい、くらい
38	2月7日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	～をはじめ
39	2月14日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	～にとって
40	2月21日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	～に違いない
41	2月28日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	質疑応答
42	3月6日	2時間	7人	多文化共生センター Cルーム	総まとめ

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

7月12日

外国人受講生・スタッフでチームをつくりゲーム形式で名詞や単語を覚える授業を行いました。担当のスタッフ以外と会話する機会をもうけることによって、生徒のくせや普段は見逃してしまう点をスタッフ同士で共有することができ、より細かい指導をすることができました。(写真左)

1月24日

様々な国からの受講生が多いので、自分の国について日本語で紹介する授業を行いました。わからない言葉をすぐに教えてしまうのではなく、生徒で協力して考えさせることによって自分たちの力で調べる・考える力を身に付けさせました。このことにより家庭での学習もより力が入ることと思います。(写真右)



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

受講者全員が、日本語能力試験(N3/N4)対策目標に掲げている。そのため授業の学習目標

の達成は、日本語能力検定試験の結果から評価する。

	合格	不合格	無受験
N3	2	1	1
N4	3	0	0

(2) 学習者の習得状況

学習者の日本語の習得については、受講者自身による授業評価を実施した。アンケートは学習者の習得状況を含め、授業が効果的且つ適正に実施されたかについて包括的に評価した。

アンケート対象者

アンケートによる評価は、南米日系人の青年のみを対象とした。本運営委員会から特別に授業への参加を許可された南米日系の青少年の以外の他の属性を持つ受講生は授業評価には参加していない。第1回アンケート調査では7人、8月2日に5人、8月9日に2人がアンケートに応じた。第2回アンケート調査では6人が、12月20日にアンケートに応じた。

アンケート調査の実施対象期間

アンケートは、第1期の終了時の8月2日、8月9日の2回、第2期の終了時の12月20日に実施した。アンケート対象期間は以下の通りである。

	期間
第1期	2011年4月26日～8月9日
第2期	2011年8月23日～12月20日
第3期	2012年1月10日～3月6日

第1回 アンケート実施前の授業日数：15日

第2回 アンケート実施前の授業日数：18日

	実施日数	延べ参加人数
4月	1日	5人
5月	6日	35人
6月	14日	29人
7月	15日	20人
8月	13日	20人
9月	12日	25人
10月	11日	29人
11月	14日	40人
12月	12日	20人
1月	12日	26人
2月	14日	28人
3月	2日	7人
計	141日	284人

アンケート調査項目

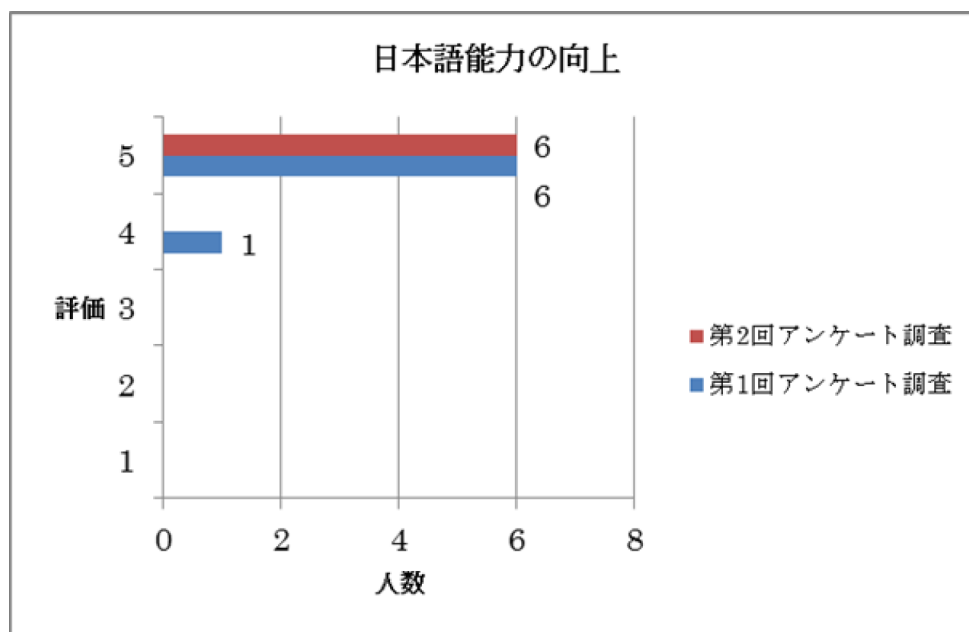
授業と受講者自身の授業に対する取り組み方を評価した。

①授業に対する評価		
1	先生の教え方はわかりやすかったですか。	授業内容の難易度
2	先生の授業の進め方は、良かったですか。	授業の進め方
3	テキストはわかりやすかったですか。	教材の難易度
4	この授業を受けてよかったですか。	満足度
②授業に対する取り組み方		
5	あなたはこの授業によく出席しましたか。	出席の割合
6	あなたは授業時間外で授業の学習をしましたか。	授業時間以外の学習
7	あなたは、授業に熱心に取り組みましたか。	授業への取り組み
8	あなたは、この授業で日本語能力が向上しましたか。	日本語能力の向上

受講者にアンケートの質問用紙および回答用紙を配布し、①授業内容と②授業への自分の取り組みについての質問項目に関する回答を得た。回答は、それぞれの質問について5段階評価とした。

5	かなり高い（かなり良い）
4	高い（良い）
3	普通
2	あまり高くない（あまり良くない）
1	低い（悪い）

「あなたは、この授業で日本語能力が向上しましたか」の質問項目から受講者の習得状況の達成状況についての自己評価をしてみる。「かなり日本語能力が向上した」との回答は、全体を通して受講者の習得の状況は高かった。第1回、第2回のアンケート調査で7人の中で6人が「かなり日本語能力が向上した」と回答した。



(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

学齢期を過ぎた外国人の青少年に対して学び直しの機会を提供できた。平成 22 年度同様に、浜松市が、金曜日にジュントス日本語教室を設置したため、本授業はジュントス教室の授業と相互に補完しながら学ぶことができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

浜松市において外国人の日本語学習に関わる関係者や及び浜松市民に対して、積極的に報告した。

11 月 20 日	「U-Toc 文化祭」参加 (外国人学習支援センター)
3 月 25 日	ジュントス教室成果発表会

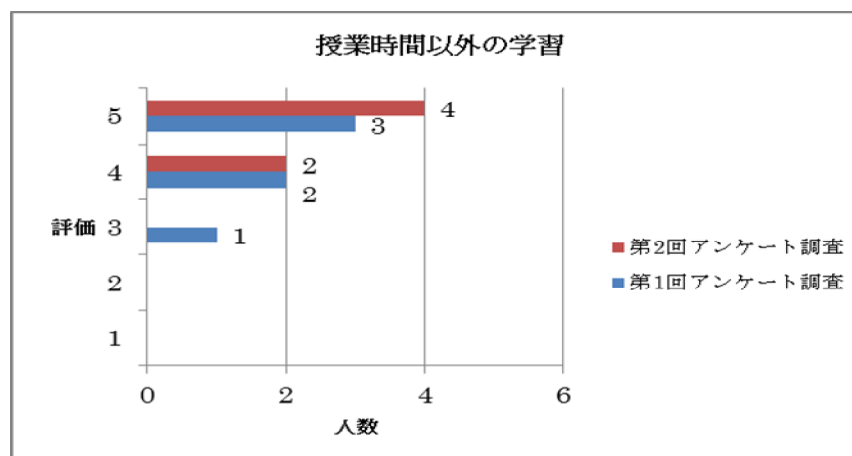
(5) 改善点, 今後の課題について 具体的に記載すること。

① 現状

受講者全員が輸送機器関連の企業の下請企業に派遣されている工場労働者である。派遣労働者の就労時間はシフト制であり、週ごとにシフトが変わり、不規則の就労時間は学習の継続に影響を与えた。一方、経済不況以降の静岡県西部地域では、就職には日本語能力が必要であるとの認識が広がり、日本語の学習への動機づけが高い現状に変わりはない。

② 今後の課題

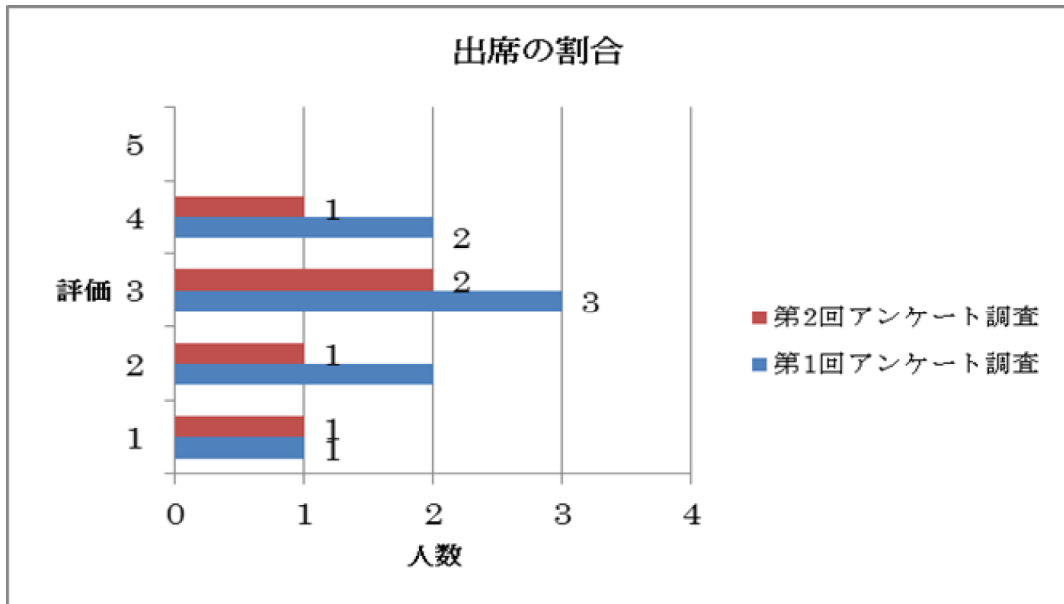
平成 22 年度からの課題である授業時間内の学習と授業時間外の学習との連携については、本年度はかなりの部分において改善された。学習ポートフォリオを導入して個々の受講者が、短期的・中期的な目標とその目標の達成のための学習計画を立てるなど、自己主導型の学習が定着した。また、講師が授業外での学習を促進し、授業外の学習へのフィードバックを与え、自律的な学習を促進させることができた。授業時間以外の学習に関して問う質問項目には、第一回、第二回アンケートとも、授業時間以外の学習を積極的に行っている 5 評価と回答した受講者が多かった。



③ 今後の活動予定, 展望

授業時間外の学習

アンケート結果でも明らかなように、受講者が継続的に授業に出席することが困難であった。そのため、今後もさらに授業時間外の学習を促進していく必要があるだろう。



(6) 参考資料 アンケート調査結果

